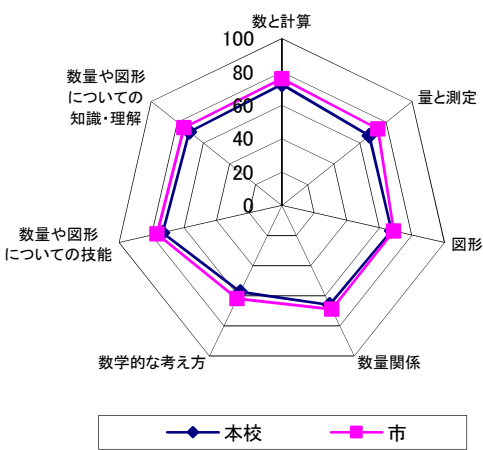


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.6	76.1	73.5
	量と測定	67.1	73.6	70.1
	図形	67.5	68.8	66.6
	数量関係	66.0	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	57.5	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	73.3	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	70.8	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「真分数＋真分数＝真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる」の平均正答率は83.2%で、市の正答率を1.1ポイント上回った。 ●「小数の除法の文章問題を表した図を選ぶことができる」の平均正答率は70.8%で、市の正答率を5ポイント下回った。 ●「図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選ぶことができる」の平均正答率は56.6%で、市の正答率を4.8ポイント下回った。	・文章問題から数直線上に数量の関係を表す問題では、まず問題文の単位に着目するよう助言していく。似た問題をいくつか解かせることで数直線への抵抗も減るものと思われる。 ・立式については、数直線を用いて「1あたりの大きさ」を求める場面であることを視覚的に捉えさせ、除数が小数でも整数の時と同じように式に表せばよいことを助言していく。数直線を用いながら、似た問題に数多く取り組ませるようにする。
量と測定	●「高さが図形の外にある平行四辺形の、高さにあたる場所を選ぶことができる」の平均正答率は42.5%で、市の正答率を9ポイント下回った。 ●「直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる」の平均正答率は65.5%で、市の正答率を8.7ポイント下回った。	・図形に関する問題では、視覚的に捉えることができる具体的な操作活動を取り入れながら理解できるよう支援していく。 ・複合図形の体積の求め方については、2つの直方体に分けた見取図を用いることで、様々な求め方に気付かせるよう支援していく。
図形	○「点対称な図形を選ぶことができる」の平均正答率は85.8%で、市の正答率を4.3ポイント上回った。 ○「線対称な図形の対応する点を見つけることができる」の平均正答率は48.7%で、市の正答率を0.8ポイント上回った。 ●「3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる」の平均正答率は87.6%で、市の正答率を6.1ポイント下回った。	・合同な三角形の作図については、既習事項である作図の手順について確認をしながら描かせるようにする。繰り返し作図をさせることで、コンパスの使い方に慣れさせていくようにする。
数量関係	○「反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求めることができる」の平均正答率は50.4%で、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ●「2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる」の平均正答率は64.6%で、市の正答率を8.2ポイント下回った。 ●「円グラフから割合を読み取り、比較量を求めることができる」の平均正答率は61.9%で、市の正答率を4.9ポイント下回った。	・文字を使った式に関する問題では、数直線に表すことで問題場면을把握し、見通しを持たせながら解決できるよう支援していく。 ・割合については、問題場面から、基準量と比較量の関係を理解することができるよう、公式だけでなく、図と対応させながら考えさせるようにする。